

ひとりにしない

# 一人ひとりのケアを 様々な視点から考える

9 階北病棟  
(消化管外科・消化器肝臓内科)

がんや難病などで入退院を繰り返す患者さんが多い9階北病棟。  
患者さんが疾患と共に生きるためにはどんな看護が必要か、  
スタッフ皆で考え、実践しています。



9 階北病棟には、胃がん・大腸がんなど消化管のがんや、潰瘍性大腸炎、クローン病などの患者さんが入院しています。検査入院や予定オペの患者さんは1〜2週間で退院していく一方で、再燃して何度も入院してくる患者さんや、終末期の患者さんも少なくありません。

「私たちは、患者さんの身体や心などの様々な痛みを取り除きたい、患者さんの生活や人生を考えたケアをしたいという思いを持って看護をしています。皆モチベーションが高いので、いつも刺激を受けています。」

そう話すのは、入職4年目の川端里沙さんです。

「当院ではパートナースhip ナーシングシステムをとっており、ベアで看護にあたります。私はよく新人さんとベアを組んでいますね。」

川端さんに、新人の頃のことを振り返ってもらいました。

「1年目の時によくベアを組んでいた先輩から教わったことが、私の看護のベースになっていますね。右も左もわからないなか、先輩の看護を目の前で見て、技を盗んできたという感じです。他にも、様々な考え方を持った先輩たちが熱心に指導してくださったおかげで、今の私があります。『私、役に立っているのかな…』と自信を失いかけた時も、『しっかり悩んだら絶対に伸びるよ!』と励まされていたとき、乗り越えられました。だから、私も後輩にこの病棟の看護をしっかり伝えていきたいし、困ったときに力になれる先輩になりたいと思っています。」

「患者さんへのアプローチ方法や大切にしている看護観は、スタッフによって様々です。皆、その多様性を前向きに捉えて、看護に活かしていく雰囲気があると思います。また、緩和ケアチームがラウンドに来た際には、密な情報交換を心がけています。様々な意見を取り入れ、視野が

でいますね。ベアで看護をするメリットは、より多角的に患者さんを看られることです。患者さんの抱える苦痛は様々で、どう介入すべきか迷うことも少なくありません。ただ、ベアだと相談しながらケアをすることができるので、心強いです。また、人によって観察しているところが違ったりするので、日々新たな気づきがありますね。」

カンファレンスでも、患者さん一人ひとりのケアについて、活発な議論が交わされます。



# 患者さんからも スタッフ同士でも 「ありがとう」が 飛び交う

10 階南病棟  
(心臓血管外科・呼吸器外科・呼吸器内科)

肺がんや心疾患の患者さんが入院する10 階南病棟。  
術前術後の管理や緩和ケア、意思決定支援、  
退院支援などに、スタッフ皆が  
意見を出し合いながら臨んでいます。

10 階南病棟には、主に肺がん  
や心疾患の患者さんが入院して  
います。  
「外科的治療においては、手術  
自体が高度な場合や、合併症の  
リスクが高い場合が多いため、  
術前から術後まで患者さんに安  
全に過ごしていただくことを大  
事としています。その一方で、  
根治が難しく、内科的治療を行っ  
ている肺がん患者さんを看るこ

とも少なくありません。本人と  
家族の思いにじっくり向き合い  
ながら、現実的に生活していけ  
るところまでを支援するの、も、  
僕たちの大切な仕事です。」  
この病棟の特徴を、「患者さん  
からもスタッフ同士でも『あり  
がとう』が飛び交う病棟」と表  
現したのは、坪井博さん。入職  
して2年目です。  
「とにかく話しやすい雰囲気な

ので、患者さんのケアに悩んで  
もすぐに助けを求めることがで  
きます。そして互いに協力し合  
うたびに、素直に『ありがとう』  
と言い合えるんです。これは日  
頃からスタッフ皆が、患者さん  
のことだけでなく、共に働く仲  
間のこともよく見ているからか  
もしれません。仕事の話だけで  
なく、『髪切った?』『休みはど  
こ行くの?』など、他愛のな



い会話もよくしています。」  
また、毎日のカンファレンス  
では、先輩から新人への「あり  
がとう」も多いといいます。

「患者さんのケアを皆で考える  
ときには、知識だけでなく、実  
際に患者さんを見て気づいたこ  
とや感じたことを大事にしてい  
るので、新人でも有益な情報を  
出せることがよくあるんです。  
経験年数にかかわらず意見を言  
えるのはありがたいですし、先  
輩たちの着眼点を知ることでも  
できるので、カンファレンスはと  
ても勉強になる場です。」

そんな坪井さんも、入職して  
すぐは不安だったそうです。

「疾患の知識も少なく、患者さ  
んとの接し方もわからないうち  
は、先輩からの指導が厳しく感  
じられたこともありましたが、け  
れど、教わったことを勉強して  
いくと、徐々に『患者さんにう  
まく説明できているぞ』という  
実感がわいてくるんです。そし  
て自分の仕事がちゃんとできた  
ら、患者さんからも先輩たちか  
ら『ありがとう』『できている  
ね』と必ず認めてもらえる。そ  
ういうことの繰り返しで、僕は  
自信をつけてきました。だから、  
新人さんにもぜひ安心して入っ  
てきてほしいですね。」



## 新人から2年目まで 看護職を組織全体で 育てています

当院には、新人から2年目までの看護職を組織全体で育てるための仕組みがあります。  
まず新人には、相談役として「新人サポーター」が必ずつきます。そして、「教育担当者」が、新人から2年目までの看護職それぞれの成長に合わせて指導を調整しています。さらに、日々の業務においては、全てのスタッフが指導役として関わります。師長や副師長が主導しながら、チーム全体で常に新人から2年目までの看護職をサポートする体制ができています。  
部署外にも、教育専任師長・副師長、ラボインストラクターなど、新人・2年目が相談できる人がたくさんいます。

### ● 各々の課題に合わせて指導

教育担当者 津田 翔司



病棟では、教育担当者が中心となり、スタッフ全員で新人から2年目までの看護職の指導にあたっています。教育担当者の主な役割は、病棟スタッフ全体に指導方針を発信することと、指導した時の様子などの情報を得ることです。入職してしばらく経つと、各々が抱える課題は違ってきますので、同じ指導の仕方ではうまくいきません。それぞれ

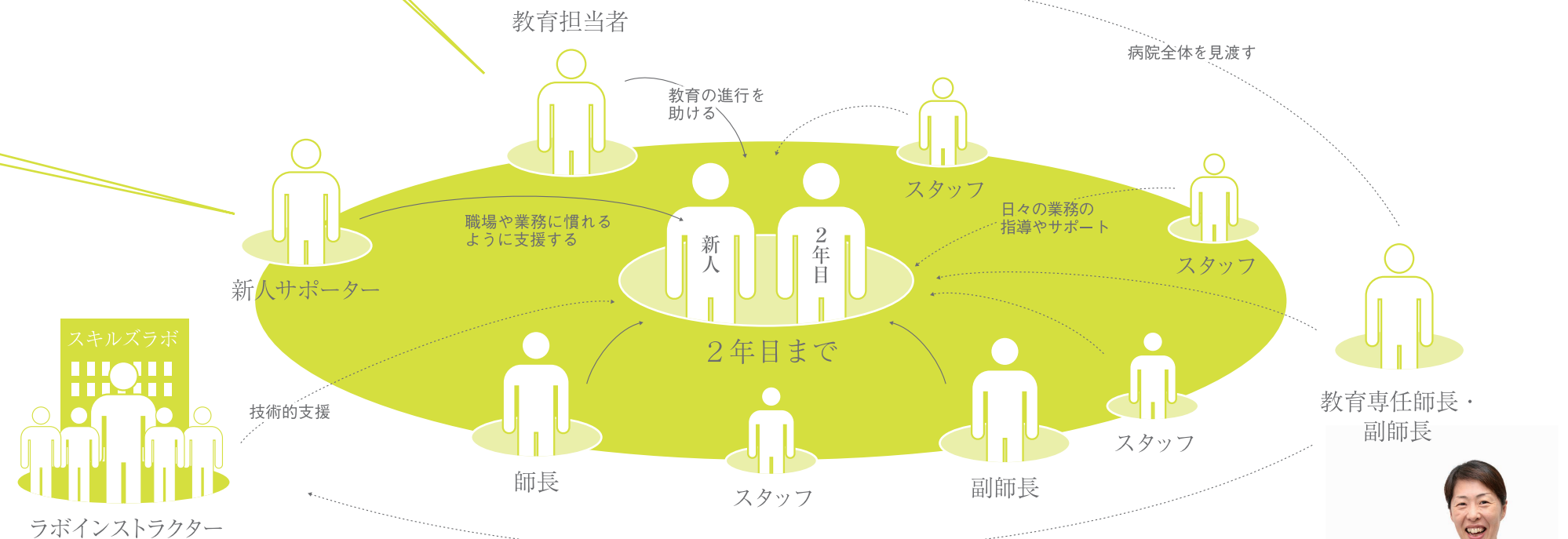
の課題に対してどう対応すればいいか、師長や教育担当副師長、新人サポーターと共に考えています。  
指導の上で大切にしていることは、自分で考えさせることです。月1回ほど面談を設けて、今の自分の課題と目標と一緒に考えています。自分で考えることが、やる気にもつながっているようです。

### ● 一番に相談できる 相手として

新人サポーター 加藤 亜友美



新人サポーターは、新人が一番に相談できる相手として、メンタルサポートを主に行います。シフトが一緒の時はペアになりますし、ペアになれない場合でも、その時の相手からどんな様子だったかをこまめに聞いています。  
大変そうな時や疲れていそうな時は、できるだけ私の方から声をかけています。共感しつつ、具体的に「じゃあここまでやってみようか」と提案したり、私が新人の頃に役に立ったことを共有したりしています。まだ未熟なところもありますが、いろいろな面で頼られる先輩になっていきたいです。



### ● 少し離れた ところから見守る

教育専任副師長・ラボインストラクター 信岡 友絵



私たちラボインストラクターは、スキルズラボでのトレーニングを指導しています。トレーニングの様子はインストラクター同士で共有し、どのインストラクターが指導にあたっても、それぞれに合ったペースで学べるように配慮しています。  
ラボを訪れた際に、病棟では言いにくいことを相談してくれる人も多いです。話を聞いてみて、病棟での指導方針を変えた方が良さそうだと感じたときには、師長に情報を提供することもあります。病棟とは少し離れたところからアプローチできるので、安心して相談しに来てほしいと思います。



### ● 体験型研修

座学だけではなく、実際に手や体を動かして行う体験型の研修を多く取り入れることで、参加者の意識も高まります。



### ● 多職種での合同研修

チーム医療を担える医療職を育成するため、院内の多職種で合同のシミュレーション研修を行っています。



### ● 技術研修

新人研修では、シミュレーターを使用した技術研修（スキルズラボトレーニング）を定期的に取り入れています。

### ● 知識・技術を 自分のものにする支援

教育専任師長 石倉 夏海



当院の研修は、全体で行う集合研修と、現場で行う教育（OJT）を組み合わせしており、知識・技術を習得するための様々なプログラムを用意しています。そこで得た知識・技術を一人ひとりが自分のものにしていけることを大切にしています。



## 仲間と共に成長して、 病院全体を良くしていきたい

私は入職4年目です。所属病棟では一通りのことができるようになってきたと感じています。この年次になると、決められた研修は多くありません。ただ、自分で勤務調整をすれば、病院全体の研修や外部の研修を受けることができます。興味のある分野の勉強をするとモチベーションが上がりますし、視野が広がるのを実感できますね。このごろようやく、私も病棟を、そして病院を良くしていくことができる年次になったかなと、自信がついてきました。というのも、この秋に私の発案で「バイタルサインを見直す」とい

う研修を行ったんです。初めは病棟の勉強会のつもりでしたが、どの病棟でもバイタルはとるし、医師にもご協力いただいて、看護職皆で学べばいいのではと考えました。そこで看護部に提案すると、病院全体の研修として採用され、90名もの参加がありました。大学病院が専門科に分かれていたからといって、そこだけに留まるのはもったいないと私は思います。様々な病棟の仲間たちと共に学び、皆で幅広く患者さんを看られるようになれば、この病院の医療全体がもっと良くなるのではと考えています。

### 藤見 奈央

10階北病棟（循環器・腎臓・総合・糖尿病内分泌・リウマチ膠原病内科）

## ステップアップを支える 豊富な研修を用意

### ● プロフェッショナルへの後押しをします

当院では2年目以降もステップアップできるよう、クリニカルラダーレベルⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ研修を設けています。またレベルが上がってきた方のために、管理研修や、看護の専門性を高めるための領域別院内認定コース研修なども設けています。これらの研修によって、管理職や専門・認定看護師への支援をしています。



## 一人ひとりの成長を支援

### いつでも技術トレーニングができる場があります スキルズラボ

#### ● 予約すればいつでも シミュレーターで訓練できます

スキルズラボでは、研修プログラム内で定期的に行われる技術研修以外にも、予約すればいつでもシミュレーターでのトレーニングを行うことができます。普段の業務を離れた場で、落ち着いて技術を身につけることができます。



赤い液体が出るシミュレーターで採血の訓練。



訓練しながら互いの近況を共有し合うことも。



広々としたラボでは多くの研修が行われます。

#### ● 病棟での指導経験がある インストラクターがいます

スキルズラボには、専任のインストラクターが常駐しています。病棟で新人を指導した経験のあるインストラクターばかりなので、技術的な指導だけでなく、病棟での業務における様々な相談にも乗ることができます。

## 三重大学出身でなくても安心して成長できます

### 主な出身校一覧

三重大学・三重県立看護大学・四日市看護医療大学・鈴鹿医療科学大学・三重看護専門学校・津看護専門学校・三重中央看護学校・三重県立桑名高等学校衛生看護専攻科・桑名医師会立桑名看護専門学校・ユマニテック看護助産専門学校・四日市医師会看護専門学校・聖十字看護専門学校・名張市立看護専門学校・岡波看護専門学校・松阪看護専門学校・伊勢保健衛生専門学校・岐阜大学・椋山女学園大学・中部大学・愛知医科大学・藤田保健衛生大学・畿央大学・和歌山県立なぎ看護学校

…他

#### ● 三重大学以外からも毎年入職者がいます

当院は大学附属病院ではありますが、スタッフは三重大学の出身者ばかりではありません。様々な看護学校から毎年入職し、看護職として活躍しています。各病棟においても、出身を問わず、個人の特性に合わせて育てる体制ができています。

#### ● 親睦を深める 交流会があります

仲間をすること、お互いを支え合うことを目的に、年3回、新人看護職の交流会を設けています。





## 出産・子育てをしても 長く働き続けられる環境です

私は入職5年目に結婚し、6年目に第一子を出産しました。今は8歳と5歳の子がいます。

第一子を出産した時、1年6か月の育児休暇をいただきました。復職してすぐは、新しい知識や技術についていけなかったらどうしよう…と不安でしたが、先輩ママさんナースたちがいつも気にかけて声をかけてくださいました。経験者の方々の言葉は心強く、安心して仕事に戻ることができました。

現在は、育児短時間制度を利用しています。病棟の皆さんも理解があり、良い環境で働かせていただいていると感じます。

子どもが急に熱を出したりして突発的に帰らなければならぬ時でも、すぐにリーダーが私の業務を振り分けてくださるんです。また、ママさんナース同士で、休み時間に子育ての悩みを共有できるのもありがたいですね。私も、助けていただいているからには効率良く業務を終わらせようと、日々意識しながら仕事をしています。

子どもたちは2人とも、病院敷地内にある「さつき保育園」に入ることができました。保育園では、当院を退職された看護師さんが病児保育もしてくださるので、安心して預けられます。

大仲 真子

5階北病棟（耳鼻咽喉頭頸部外科）



## ママさんナースを 手厚く支援します

### ● 休暇・制度など

産前産後休暇（産前6週間、産後8週間）、育児休業制度（満3歳になるまで）、育児短時間制度（小学校3年生まで）、授乳制度などを利用できます。

### ● さつき保育園

病院敷地内には、三重大大学の職員のお子さんが通える保育園を併設しています。



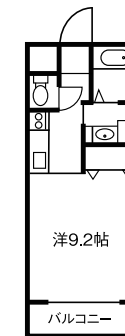
## 働きやすい環境づくり

### 一人暮らしでも安心の寮完備



- 看護師宿舎を3棟完備。  
設備充実でセキュリティ面も安心です。

看護師宿舎は、ワンルームマンションを3棟完備しています。男女ともに入居でき、入居期間に制限はありません。オートロックシステムや最新の冷暖房システムなど、設備面も充実しています。社会人として独立した生活を送りたいと希望している方に好評です。



費用の目安（平成29年4月現在）

※宿舎により異なります

|     |                  |
|-----|------------------|
| 家賃  | 月額10,000～14,000円 |
| 共益費 | 月額4,000～5,000円   |
| 駐車場 | 月額5,000円         |

## よくある質問

### ● 看護提供方式は何ですか？

当院はパートナーシップナーシングシステム（PNS）をとっています。ペア同士が互いに支え合いながら働ける環境です。

### ● どのような勤務体制ですか？

部署によって2交替制・3交替制のいずれかを採用しています（詳しくは当院の看護部HPをご覧ください）。週38時間45分勤務、4週8休制です。

### ● 配属先はどのように決まりますか？

配属先の希望を3つまで出してもらい、なるべく希望に沿うように調整して決定します。

### ● 入職後、配属先は変更できますか？

毎年1回、個人の意向調査を実施し、それを基に、スキルアップ・キャリアアップにつながる異動を行っています。



# 私たちが三重の医療を支えます

三重大学病院は、三重県の医療の最後の砦です。地域の診療所・中小病院からの紹介や、ドクターヘリなどの救急搬送によって、重症の患者さんや難しい疾患の患者さんを受け入れ、高度な医療を提供するのが、この病院の使命なのです。ですからここで働く看護職には、幅広く様々な患者さんを見る知識と技術が求められます。

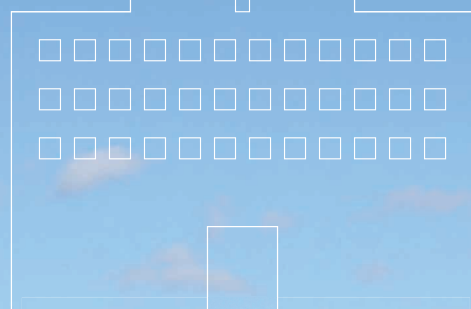
## 大学病院の位置づけ

かかりつけ医



大学病院

Mie University Hospital



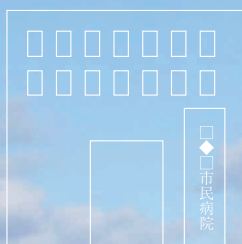
救急



地域の産院



地域の病院



三重県の医療の砦



精神科神経科病棟  
濱口 栄子師長

耳鼻咽喉頭頸部  
外科病棟  
田所 孝子師長

小児科・小児外科・  
小児循環器外科病棟  
武藤 昭江師長

腎泌尿器外科・  
齒科口腔外科病棟  
塚脇 美香子師長

産科婦人科・  
乳癌外科病棟  
日比 美由紀師長

整形外科・形成外科・  
IVF科・放射科病棟  
大原 美佳師長

脳神経外科・  
神経内科病棟  
河野 由貴師長

肝胆膵外科・  
消化器肝臓内科病棟  
本多 正繁師長

消化器外科・  
消化器肝臓内科病棟  
遠村 真理子師長

心臓血管外科・  
呼吸器内科病棟  
高口 有香子師長

循環器・腎臓・  
総合・糖尿病内分泌  
リウマチ膠原病内科病棟  
竹内 美幸師長

血液内科・眼科病棟  
西川 陽子師長

腫瘍内科・皮膚科病棟  
福田 みどり師長

中央手術部・  
中央放射線部  
水谷 典子師長

救命救急・  
総合集中治療センター  
林 智世師長





看護は、  
どこでも等しく  
高度な営みです



私たちの看護  部長・副部長対談

## 私たちの看護のあり方

副病院長・看護部長 江藤 由美 × 副看護部長 森 多佳美

一人ひとりに最善の看護を

江藤：「昨今、学生さんにどんな看護をしたいか聞くと、「心に寄り添う看護をしたい」「傾聴したい」と答える人が多いように感じます。メンタル面の支援も、もちろん看護の重要な一側面ですが、看護職に求められることはそれだけではないですよ。

森：ええ。まずフィジカル面で患者さんをきちんと観察し、アセスメントし、判断すること。これが看護職の専門性の基本です。それからしっかりと身につけてほしいです。そのうえで、患者さんや家族の思いを汲み、生活を想像し、その人に合った関わりを柔軟に考えることが大切だと思います。

江藤：看護部理念である「一人ひとりの患者さんに最善の看護を提供する」にも、人は一人ひとり違うという思いがあります。森：ええ。独りよがりにはならず、共に働く看護職の意見や考えも取り入れてほしいですね。

大学病院の看護は難しい？

江藤：「大学病院の看護は難しいのでは」という声もあります。確かに大学病院には、重症の方や稀な疾患の方が多いですが、診療体制が充実しているので、

基本的なことがしっかりとできれば問題ないと思います。対して在宅などでは、独りで限られた情報から判断しなければならぬという難しさがあります。それぞれの医療現場で求められることは異なりますが、どんな場で行われる看護も、それぞれ高度なわけではないでしょうか。

森：ええ。大学病院であっても、基本的な知識と技術をベースに、毎日丁寧に患者さんを見ることは同じなんですよね。

江藤：そう。専門的な知識を持つスペシャリストだけでは、患者さんは救えませんか。

森：患者さんはもちろん、看護職も一人ひとり異なり、得意不得意があります。だから、独りで全てができなくてもいい。互いを独りにせず、皆の力を合わせて、チームで良い看護ができればと思います。

江藤：そうですね。そのためにも、ある程度の経験を積んだ看護職には、それぞれの強みを伸ばすよう関わっていききたいです。さらに、様々なライフイベントを経ても働き続けられる環境を整えたいですね。いろいろな人が関わる方が看護に厚みが出ますし、それが結果的に患者さんの幸せにつながると私は信じています。



concept

## 「ひとりにしない」

私たち三重大学病院看護部は、日々目まぐるしく  
変化する急性期医療の現場においても、新人を決  
して「ひとりにせず」、皆で支援します。そして、チー  
ムとして力を合わせることで、患者さんを「ひとり  
にしない」看護につながると考えています。  
私たちと共に手を取り合って、この地域の医療を  
支えていきましょう。



住所 〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174  
TEL 059-231-5184 (看護部管理室 直通)  
FAX 059-231-5228  
URL <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/nurse/>



詳しい情報は上のQR  
より当院の看護部  
HPをご覧ください。

